

業界担う外国人を丁寧に育成

岩手マイタック（盛岡市橋本正彦社長）が管理・運営する技能実習生などを対象とした「東北国際教育センターCiet（シエット）」では、多様な研修メニュー、充実の教育・宿泊環境を用意している。実習生や受け入れ企業が思い描いてきた、理想の研修施設を実現した。



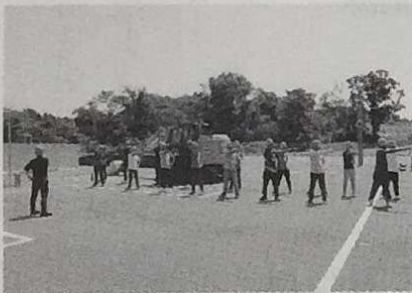
施設全景

シエットは、宮城県大郷町にある技能実習生や特定技能入国者を対象とした東北唯一の建設関連大規模教育訓練施設。規定されている176時間の日本語講習や生活一般、技能習得に関する知識、法的・公的講習などが学べる。加えて、13万1000平方メートルの広大な敷地を有し、建設施工のオペレーターの実技研修なども可能。日本人に向けたコペルコ講習所の「小型移動式クレーン運転」「玉掛け」「車両系建設機械運転」といった技能講習も設けている。

また、大きな特徴は充実した外国人教育・宿泊環境だ。1クラス24人以下の少数制とし、建設現場で必要となる基礎知識などを一人一人丁寧に教えることができる。併せて、1〜2人の個室の宿泊施設や栄養士の指導を受けた健康的な食事を準備し、生活す

充実の教育環境を提供

シエット（宮城県大郷町）



講習の様子

る環境も他施設とは一線を画す。現在、屋内実技棟や女子も入れる宿泊施設を建設しており、さらに充実した教育環境の拡充を目指す。

シエットの玉腰辰己センター長は、「せっかく来てくれた外国人の人材が、安かろう悪かろうの教育環境では、日本や建設業の基礎は身に付かないほか、日本が嫌になっってしまう。シエットは、より良い教育環境を整え、実習生や受け入れる企業それぞれが

求めている、理想の研修施設”になっている”と胸を張る。将来的には、日本人の資格取得や「災害時にミニバックホウを運転したい」といった自治体職員の受け入れなども視野に入れているという。

外国人高度人材の

育成にも着手

通常の外国人の講習に加えて、今年からは祖国で大学を卒業し、日本語の勉強も一定程度終え、将来的に現場代理人などを目指す「高度人材」の育成にも着手した。初となる講習には、青木あすなる建設のスリランカ人4人が受講。日本語での専門用語やTSSを用いた測量など、実践向きの講習から「日本の建設業」を日々学習している。

参加中のスリランカ人実習生は「日本でもっと勉強して知識を身に付けたい」「最終的には現場所長になりたい」などと高い志を教えてくれた。

た。講習に付添う、青木あすなる建設東京土木本店工事第一部の渋井利弘担当課長も「やる気があり、技術も問題ないので、徐々に現場で経験を積んでくれば」と笑顔で語る。

測量などの技術講習は同施設の考えに共感し、協力している北村技術（青森県弘前市）が担当。自ら指導に当たる同社の北村達雄代表取締役は「日本人の労働力が減る中で、外国人の受入れは喫緊の課題。高度人材の受講生は意欲も知識もあり、これからが楽しみな存在だ」と期待を込めた。



北村代表（左）から測量を学ぶ実習生